椰子の実

本調子


中 尺 〇 尺中 上 四 中 上 工 合 〇 上 〇 四 〇 〇
〇 〇 合 四 中 上 〇 合 〇 〇 合 上 尺 中 〇 尺上
なもしらぬ
とおきしまよ
老 四 〇 上 中 尺 〇 中 四 合 〇 四 中 上 上 四
りなれよやしのみひとつ
〇 工 〇 工中 上 四 中 工 中 四 〇 中 上 中 尺
ふるさとのきしをはなれて
〇 尺 中 上 四 中 上 工 合 〇 上 〇 四 〇 〇
はそもなみにいくつき
工 〇 工中 上 四 中 工 中 四 〇 中 四 上 中 尺 〇
尺 中 上 四 中 上 工 合 〇 上 〇 四 〇 〇 〇

椰子の実

本調子

一、名も知らぬ　遠き島より
流れ寄る　椰子の実一つ
故郷（ふるさと）の岸を　離れて
汝（なれ）はそも　波に幾月（いくつき）

二、旧（もと）の木は　生（お）いや茂れる
枝はなお　影をやなせる
われもまた　渚（なぎさ）を枕
孤身（ひとりみ）の　浮寝（うきね）の旅ぞ

三、実をとりて　胸にあつれば
新（あらた）なり　流離（りゅうり）の憂（うれい）
海の日の　沈むを見れば
激（たぎ）り落つ　異郷（いきょう）の涙

思いやる　八重（やえ）の汐々（しおじお）
いずれの日にか　国に帰らん